

国際連語論学会第6回大会の報告と学会誌44号〈Ⅷ〉原稿募集

会員の皆様

去る2018年2月24日(土)、25日(日)に大東文化会館で開催されました国際連語論学会第6大会でご発表いただき厚くお礼を申し上げます。本大会は詳細な研究発表・話題提供と活発な質疑応答があり、盛会なうちに終えることができました。これもひとえに研究発表や特別講演などでの話題提供をしてくだされた皆様方のお力添えによるものと思われま

す。さて、本学会では会員でも非会員でも投稿できます。ただし、論文の掲載は会員を優先とします。毎年、皆様からの投稿論文を査読の上で学会誌として一冊年末に出版することになっております。次号の学会誌『研究会報告第44号(国際連語論学会連語論研究〈Ⅷ〉)』も査読の上で出版することとなります。

また、投稿論文は一人一編(共同執筆も可)とします。選考の結果は原則として締め切り5カ月前後に投稿した発表者にE-mailで知らせますが、投稿した原稿は返却しません。原稿料も支払いません。本学会は執筆者から出版費用を徴収しませんが、執筆者には論文集を2冊贈呈します。

なお、原稿をワープロファイル(WordとPDF)にし、事務局(rengoronkenkyu@icaweb.info)と担当者(shicheng@aecc.aichi-edu.ac.jp)の両メールアドレスに電子メールで投稿原稿を添付して同時に送付する。

締め切りは、2018年5月31日(木)とします(時間厳守)。

皆様におかれましては奮ってご投稿くださいますようお願い申し上げます。

執筆要領は以下のとおりです。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

国際連語論学会会長 王 学群

2018年3月8日(木)

『研究会報告』第44号国際連語論学会連語論研究〈Ⅷ〉投稿規程と執筆要領

投稿規定

1. 投稿は、研究論文、研究ノート、実践報告、書評などとし、非会員でも自由に投稿できるが、掲載に当たっては会員を優先とする。
2. 投稿は、一人一編(共同執筆も可)で、未公開の完全原稿とする。
3. 投稿は、ワープロファイル(WordとPDF)にし、事務局(rengoronkenkyu@icaweb.info)と

担当者時衛国(shicheng@aeu.ac.jp)の両メールアドレスに電子メールで投稿原稿を添付して同時に送付する。

4. 投稿締め切りは、毎年5月31日までとし、投稿原稿の最初のページには、必ず「名前（日本語とローマ字の読み方も含む）・住所・メールアドレス・所属・肩書・学位」などを明示する。
5. 投稿の採否は、査読により編集委員会が決定する。採否の結果は締め切り後5ヶ月前後に本人に知らせる。採否に関わらず原稿は返却しない。
6. 原稿料は支払わない。本学会は執筆者から出版費用を徴収しないが、掲載した場合は、執筆者に掲載学会誌を2冊贈呈する。
7. 原稿作成にあたっては、下記の執筆要領を参照されたい。これに反する原稿は原則として受理されない。

『研究会報告(国際連語論学会 連語論研究)』執筆要領

一、 使用言語

本書の使用言語は日本語または中国語とする。

二、 原稿の構成

原稿は、次の部分から構成されるものとする。

- (1) タイトル（副題）
- (2) 執筆者名と所属機関名
- (3) 英文タイトル・ローマ字表記の執筆者名
- (4) 要旨（本文以外の言語）
- (5) キーワード（5つ以内）
- (6) 目次
- (7) 本文(図表を含む)
- (8) 脚注
- (9) 言語資料
- (10) 参考文献

三、 原稿の分量

日本語論文・中国語論文ともに原則としてA4で10枚以内とすること。

四、 原稿の書式

1. 表題などの表記方法

- (1) タイトル：ゴシック14ポイント、中央
- (2) 副題：MS明朝11ポイント、中央
- (3) 執筆者名と所属機関名：MS明朝10.5ポイント、所属期間名は括弧の中に入れる、右寄せ
- (4) 要旨、キーワード：MS明朝10.5ポイント
- (5) 見出し番号、見出し：ゴシック10.5ポイント
- (6) 本文(数字を含む)：MS明朝10.5ポイント
- (7) 図表の見出し：MSゴシック10.5ポイント
- (8) 図表の文字：MS明朝10.5ポイント(おさまるようにポイント変更可能)
- (9) 英文：Times New Roman(英文タイトルと英文執筆者名11ポイント、本文での英文10.5ポイント、注での英文9ポイント)
- (10) A4判横書き、1行40字×36行
- (11) Word文書とPDF文書を同時に提出
- (12) 脚注：9ポイント
- (13) 日本語論文以外の場合、文字ポイントは(1)―(12)の表記方法に準ずること。

2. 表記の統一

原稿の表記は、統一すること。

3. 見出しの取り方

見出しは、大中小の区別を明確に示し、見出し記号を付す。

(例) 大見出し 1. 2. 3. (半角)

中見出し 1.1 1.2 1.3 (半角)

小見出し 1.1.1 1.1.2 1.1.3 (半角)

なお、見出し番号を本文で使う場合は日本語論文ではMS明朝を使う。

(例) 「1.3で言及したように(中略)」

4. 注記

脚注とすること。注番号は本文の該当箇所に肩付き数字で、1) 2) 3) と入れること。

5. 図表

- (1) 図表には、それぞれの通し番号を付し、必ず表題をつける。
- (2) 本文中に挿入する場合は、本文中に適当なスペースをとり、図表の番号を記す。
- (3) 図表は鮮明なもので、文字ポイントは本文におさまるように調整してもいい。
- (4) 図表を、他の出版物から転載する場合は、必ず事前に当該図書の出版社から転

載許可をとりつけておく。また、その図表、写真の下に、該当図書の著者/出版年/書名/出版社名を表記すること。

6. 参考文献の記述方式

(1) 本文中で参考文献を記述する場合

文献全体を示す場合 著者の姓名(出版年)

(例) 鈴木康之 (1993) 陸俭明 (2003)

文献の一部を示す場合 著者の姓名 (出版年:当該文献のページ)

(例) 鈴木康之 (1993:12) (例) 鈴木康之 (1993:12-13)

同じ著者が同じ年に2冊以上の本を出している場合、年号の後にaやbをつける。

(例) 鈴木康之 (2000a : 7) 鈴木康之 (2000b : 28) のように

なお、数字 (MS明朝)、句読点 (標点符号)、() などは全角。

(2) 参考文献リストを付ける場合

(イ) 記述されている言語によって分類し、まず和文の参考文献を著者名あるいは編者名の50音順に、続いて他の言語による文献を並べる。英語などローマ字の場合はアルファベット順、中国語・韓国語の文献などは執筆者の判断にしたがって順番を定める。

(ロ) 同じ著者名の文献が続く場合は、2冊目以降は繰り返さずに、「——」を用いる。

(例) 南不二男 (1981) 「言葉のタブー」『講座日本語学』第9巻、明治書院:43-64
—— (1987) 『敬語』、岩波新書

(ハ) 和文文献の場合は、原則として次の記載方法による。

1) 著者名 2) 刊行・発表年 3) 論文名 4) 書名または雑誌名 5) 発行機関 6) 頁

(例) ネウストプニー, J. V. (1979) 「言語行動のモデル」『言語と行動』講座言語第3巻、大修館書店:33-54

南不二男 (1981) 「言葉のタブー」『講座日本語学』第9巻、明治書院:43-64

(ニ) 英語などローマ字の場合は、原則として次の記載方式による。

1) 著者名 2) 刊行・発表年 3) 論文名 4) 書名または雑誌名 5) 発行地および発行機関 6) 頁

なお、4) については、イタリック体で書く。

(例) Neustupny, J. V. 1977. Some strategies for teaching Japanese honorifics.

Journal of the Association of Teachers of Japanese 12, nos 2-3:135

(ホ) Web ページを参考文献として掲載する場合には、URL、及び参照した日付を記載する。

(例) 国際交流基金 「日本語教育国別情報〈英国〉」

<http://www.jpff.go.jp/j/japan_j/oversea/kunibetsu/2004/uk.html> , 2005

年10月20日参照

(3) その他の表記

- ルビ：原則として上につける。ただし、引用部分はその限りではない。
- 引用文：引用であることがわかるように表現する。一般には3文字開ける。注などを用いるか、文中に()などで出典を表すかは、執筆者の判断に任せる。引用に手を加えた場合は、その旨を明記する。
- 外国人の姓名：論文中に姓名を英語ではなくカタカナで表記する際は、「・」を姓と名の間に入れる。
- 句読点：日本語は「、」と「。」を用いる。中国語は标点符号を用いる。
- 書名、論文名：日本語の書名は『』、論文名は「」を用いる。中国語の書名は《》、論文名は〈〉を用いる。
- 網掛けの使用は避けること。

五、注意事項

本文中での先行研究の引用、または参考文献に挙げる学術雑誌についてその出所などを明示する以外、必ず該当雑誌の巻数と頁数を明記すること。